



16:9 「さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。

16:10 マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行って、そのことを知らせた。

16:11 彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。

16:12 それから、彼らのうちの二人が徒歩で田舎に向かっていたとき、イエスは別の姿でご自分を現された。

16:13 その二人も、ほかの人たちのところへ行行って知らせたが、彼らはその話も信じなかった。

16:14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに見え、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。

16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、

16:18 その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

16:19 主イエスは彼らに語った後、天に上げ

られ、神の右の座に着かれた。

16:20 弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもつて、確かなものとされた。】

マリアはイエス様の復活について伝えましたが、弟子たちでさえ復活を信じていられませんでした。人は死の前には希望を持つこともできません。束縛されていることがよく分かります。死の意識に主イエスは復活を事実として表しました。すなわちご自身を事実とします。復活は事実であるからこそ力があります。弟子たちの内面の希望という程度であるなら、それは無力です。信じることはできなくても、事実を見ることはできます。それは歴史的に記録が残されている事実です。それが復活の信仰なのです。

そしてその事実の上に、私たちの希望は成り立っています。私たちの身代わりになり死んでよみがえったというだけでは、私たちが同じようになるといえることだからです。希望を持ち続けましょう。その希望を「全世界」の中の日本で「宣べ伝え」しましょう。「信じる者」に与えられる「しるし」を表しましょう。それらが人に伝わるような生

方を

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

